

## 性の理解で築く新社会

甚平を 着て

雲中にある思い（鷹羽狩行）

夏の休日、甚平姿で孫の手を引いて街を歩いたら、いつものビジネスの世の中から、心身ともに解き放された心地がして実に爽快。

思い切って現状から自己否定してみること、新しい分野が開けます。

男と女の習慣や制度の違い、仕事と家庭生活―そうした今までのカラを破ってみる。男女が理解し協力していくことで、新しい生き方と世の中が広がります。



男の料理教室

「与作は木を切る、へいへいほー女房は機を織る」―男は外で働き、女は家事―。その昔からのパターンが今、大きく崩れてきました。

女性労働が大幅に増え、新しい男女観が進んできました。鯖江市の女性就業率は約55%で、全国平均の46%を大きく上回っています。

「誰に食わせてもらってるんだと、よく言う」こんな男性へのアンケートで性別感覚をチェックし、あなたの性別柔軟性が測定できます。

・賃金の格差に泣いた母子家庭  
・颯爽とあの娘ダンプの運転手  
男女平等参画川柳コンクールで、こんな傑作が14首も集まり、時代を映し出しています。

家庭内暴力も新たな課題です。

配偶者間の暴行などの刑法犯で女性が被害者となった事件は97%を占めています。

長引く不況とリストラ、過酷な仕事に悩む。こうした職場の吐け口をつい家庭に向けてしまいがち。ここにも暴力の温床があります。

これらを防ぎ、男女お互いの協力で、より良い社会を目指そうと男女平等参画推進条例が生まれました。